

個室車両が組み込まれた思い出の出雲2・3号を再現



1月発売予定



写真:トレジャートレインズ

◆実車ガイド

- ・14系14形は、サービス用電源をスハネフ14形の床下に積んだ分散電源方式の寝台客車として1971年に登場し、分割併合を容易に行える車両として活躍しました
- ・特急出雲は東京と出雲市を東海道本線・山陰本線経由で運行され、2・3号は14系で運行されました
- ・けん引する機関車は東京-京都間がEF65-1000形・京都-出雲市間がDD51形のりレで運行されました
- ・高速バスの価格対抗策として1989年から4号車オハネ14形に3段ベッド車両を採用し割安な料金が設定されました
- ・1991年からA個室寝台を備えたオロネ14-300と、B個室寝台を備えたオハネ14-300を連結しました
- ・1998年に「出雲2・3号」は運行終了となりました

◆製品化特徴

- ・14系14形で運行されていた「出雲2・3号」を再現可能
- ・基本セットのみで閑散期、基本セット+増結セットで通常期の編成が楽しめます
- ・オロネ14-300・オハネ14-300を除く全車にはしごパーツを装着済みによる見映えUP
- ・オハネ14のうち1両は3段ベッドシート採用・一つ星マーク印刷済み
- ・その他のオハネ14・スハネフ14は2段ベッドシート採用・三つ星マーク印刷済み
- ・全車クーラーを別パーツで再現・新集電システム・黒色車輪採用
- ・JRマーク印刷済み・Hゴムは黒色で再現(3段ベッドのオハネ14はグレーで再現)
- ・車番は選択式で転写シート付属(基本セットのみ)
- ・スハネフ14は床下発電エンジンを別パーツで再現
- ・テールライト・トレインマークは常点灯基板装備、ON-OFFスイッチ付
- ・トレインマークは「出雲」印刷済み
- ・基本セットのスハネフ14の1両はダミーカプラー・ジャンパ栓装着済み
- ・増結セットのスハネフ14は洗面所窓の埋まった姿を再現

<別売りオプション>

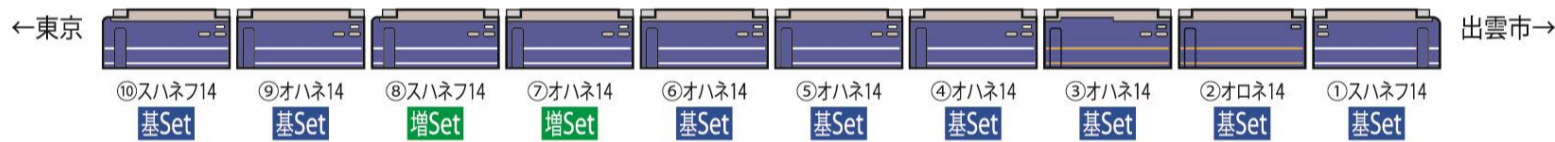
室内灯:<0733>LC(白色)
TNカプラー:<0374>密自連形

<けん引用機関車>

<7125>EF65-1000形
(田端運転所・Hゴムグレー)
<2219>DD51-1000形(暖地型)

■セット内容・編成例

●特急「出雲2・3号」(1997年頃)



※けん引機は、東京～京都がEF65形、京都～出雲市がDD51形でした。
※閑散期の編成は、9・10号車が減車となりますので、増結セットを挟まない基本セットだけの編成でお楽しみください。

<98678>	JR 14系14形特急寝台客車(出雲2・3号)基本セット	(8両)	予価 ¥17,400(税抜)
<98679>	JR 14系14形特急寝台客車(出雲2・3号)増結セット	(2両)	予価 ¥4,500(税抜)

JR西日本商品化許諾申請中

東海道線の華、ブルートレインけん引用機関車2種、改良新製品発売



1月発売予定



◆実車ガイド

- ・EF65は国鉄直流電気機関車の標準形式として1965年に登場しP形の500番代は主にブルートレインのけん引に活躍しましたがPF形の1000番代に変更となりました
- ・東海道線のブルートレインはブルトレブームの火付け役となり多くのファンより注目を浴びました
- ・501号機はJR東日本のイベント列車などで現在も活躍中です

◆製品化特徴

<共通仕様>

- ・新モーター・フライホイール付動力採用
- ・ダミーカプラー・自連形TNカプラー付属
- ・屋根・屋根上モニターは黒で再現、パンタ下屋根はグレーで再現
- ・ヘッドライトは電球色LEDによる点灯で常点灯対応
- ・前面手すり(縦)は別パーツ付属・解放テコは別パーツ装着済み
- ・黒色台車枠・一体プレート輪心付車輪・黒色車輪採用

<7124>EF65-500(501号機)について

- ・車番印刷済み・現在の姿を再現

<7125>EF65-1000(田端運転所・Hゴムグレー)について

- ・PS22B形パンタグラフの上枠・下枠部分を金属で新規製作
- ・印刷済みナンバープレート「EF65-1104・1108・1111・1115」付属
- ・印刷済みヘッドマーク「出雲・彗星・瀬戸」付属
- ・Hゴムはグレー・スノープロウの無い姿を再現

<7124>	JR EF65 ₅₀₀ 形電気機関車(501号機)	予価 ¥7,500(税抜)
<7125>	JR EF65 ₁₀₀₀ 形電気機関車(田端運転所・Hゴムグレー)	予価 ¥7,500(税抜)

JR東日本商品化許諾申請中